

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年7月22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870200961		
法人名	有限会社 フルハウスカンパニー		
事業所名	グループホーム ひまわり	ユニット名	
所在地	〒316-0001 茨城県日立市諏訪町1-20-18		
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果 市町村受理日	平成22年7月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年2月19日	評価確定日	平成22年6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>地域交流を積極的に行うようにし、ボランティアグループ「そよかぜの会」のみなさまと、月一回の交流を行ったり、日立市ふれあいサロン事業「若宮サロン」へ参加し、レクリエーションなどを、行っている。</p> <p>入浴日以外には、足浴を行ったり、口腔ケアや嚥下機能維持・向上として「発声練習」や毎月の歌を決め日々のレクリエーションの中に、必ず取り入れている。また、ホーム敷地内に畑や庭があり四季を通して、野菜や草花が利用者自らの手で、取ることが出来ます。</p> <p>野菜等は、食材に、草花はホールに置き、みなさまの目を楽しませています。</p> <p>毎月内部研修会を実施し、職員の介護・看護技術習得に努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は家庭的な雰囲気を利用者や職員がお互いに尊重し合い、職員は利用者の持てる能力に応じた対応をし、地域の人々との交流のもとで明るく安心して生活ができるように支援している。</p> <p>24時間の医療連携体制となっており、急な往診など臨機応変に対応している。</p> <p>月2回の往診と看護師による週3回の見守りは利用者や家族等の安心につながっている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者が有する能力に応じて、可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう支援する」という独自の理念を掲げている。	「利用者がその有する能力に応じて、可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう支援していく」との理念を掲げ、地域住民との交流のもとで明るく、楽しく、安心して共同生活ができるよう管理者と職員は理念を共有して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、地域の夏祭りや、文化交流会などに、利用者全員で参加し、交流するとともに、地域ボランティアを毎月受け入れ交流している。	事業所は自治会に加入するとともに地域との交流を積極的に行い、地域の夏祭りや交流センターでの文化祭に参加するほか、地域に住む一人暮らしの高齢者と交流を図ったり地域のボランティアを毎月受け入れ、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に住む、一人暮らしの高齢者との交流や地域ボランティアの交流会に参加させていただきながら、認知症の方々への理解を深めお互いに共有できる時間を大切に支援している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、サービスの質の向上のための、話し合いをしている。また、会議の際に、昼食を試食していただき、みなさまから、ご指導をいただき、より良い食事提供を目指しています。	運営推進会議は利用者や家族等の代表、市職員、コミュニティ会長、民生委員、地域包括支援センター職員、ボランティア代表で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活状況を報告したり家族等からの要望を話し合い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。 利用者が急変し近くの病院へ搬送したが、救急病院の指定が取り消されていたため受け入れてもらえなかったことがあり、利用者や家族等の安心のためにも救急指定病院を把握しておく必要があるとの委員からの意見を運営に反映させるなど、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	職員は、市の担当部署を訪問し、事業所の運営や課題などを相談している。また、月1回介護相談員が来訪し、介護情報を得ている。	管理者は市担当者に日頃から相談や情報交換をして連絡を密にとるとともに、運営推進会議への参加を得て協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内部の職員研修において、マニュアルをもとに、学び合い、職員全員の理解をして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者や職員は施錠を含めて身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。 身体拘束防止マニュアルを作成し、職員の内部研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、勉強会や、マニュアルをもとに高齢者虐待について、知識の向上に努めている。また、ご本人の状況の確認や、職員の言動行動に注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解、活用するための研修に参加。学び合い一人ひとりが必要に応じて、活用できるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約などの際には、書面を使用し、十分な説明を行っている。その際、利用者や家族からの質問や疑問に対してじっくり話を聞き、説明を行い、理解を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記している。職員は、利用者や家族等から、苦情や意見を聴きミーティングで検討するとともに、サービスの質の向上に生かしている。	職員は家族等の来訪時に意見や要望を積極的に聴く努力や場面づくりをしている。 出た意見や要望等はミーティングで話し合い運営に反映させている。 月1回介護相談員が訪問している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、グループホームミーティングへ参加し、意見や提案を聞き、運営に反映させている。	代表者はミーティングに参加し職員の意見や提案を聞くとともに、毎月1回職員と面談し相談や質問を受ける機会を設けている。 職員の提案を反映し、毎月「介護と看護」のテーマにそって技術習得の職場研修を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎月1回職員と面談し、相談や質問を受け付け職場環境・条件の整備、向上に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員は、内部研修を3ヶ月間受講している。また、外部研修の案内を回覧して、自主的な参加を促している。看護師による研修会を、月に1回開催し、職員の介護技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市主催の地域密着型サービス事業研修会や、ケアマネージャー協会主催の研修会に参加し、交流する機会に意見交換会を行うと共に、サービスの質の向上に生かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族との面接時より、状況や要望等を良く聞き取り、職員全員が統一したケアができるよう、情報の共有を心がけている。24時間を通して、細かな記録や申し送りをして安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時より状況や要望を良く聞き取り、スムーズにサービス利用が進むようにしている。さらに、利用者のご家族から聞き取りを行い、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームにおいて、ターミナルケア迄サービス利用できる今日です。幅のある支援・対応を見極め、本人家族が納得して、いただけるよう、コミュニケーションを大切にしたい対応に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、日々の生活の中で、洋裁や野菜作り、生活の知恵、季節の行事のご馳走作り、昔ながらの味付けなど、多くのことを教えてもらい、利用者と共に学んだり、支えあう関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人の訴えていることを家族に伝えると共に、協力していただける家族との絆を大切に支えあう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常時グループホームを訪ねてくる馴染みの方々と面会場所の提供をしている。また、家族、職員共に、外出するなど、「会いたい人」「行きたい場所」は大切にして、支援に努めている。	事業所を訪ねて来られる利用者の馴染みの人や家族等と共に、知人のお悔やみや墓参りに行けるよう支援するなど、職員は利用者の会いたい人や行きたい場所を大切に捉え支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「出来ること」「出来ない事を」認め合い感謝の気持ちを忘れず、言葉や行動を通して、利用者同士が関わり、支え合えるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームより、本人の強い希望で自宅に戻られた方がいます。現在も引き続き、訪問サービス、デイサービスを		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、生活歴を把握するとともに、日々の生活の中で、利用者の残存機能や、どのように暮らしたいのか、思いや意思の把握に努めている。	職員は日々の生活の中で、利用者の言葉や表情などから思いや意向を確認するように努めている。 センター方式シートにまとめて全職員で共有している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にできるだけ聞き取ることにしている。利用時の困った状態ではなく、職員の知らない生活歴を知ること、どのように対応、支援していくか参考にする。	/		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、本人の生活や、言動などにも注意を払い、気づいた点などを個別記録に記入し、引継ぎを行い、情報を共有しながら、本人の現状把握をおこなっている。				
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族等から、意見を聴くとともに、全職員でカンファレンスを行い、利用者の意向に沿った、介護計画を作成している。	利用者や家族等から意見を聴くとともにかかりつけ医の意見も参考にしながら、意向にそった介護計画を作成するとともに、3ヶ月毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、本人の生活や、言動などにも注意を払い、気づいた点などを個別記録に記入し、引継ぎを行い、情報を共有しながら、ケアの実践を行っている。また、それらをもとに介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望に沿って、地域ボランティア活動への参加、買い物などの支援をしている。また、24時間の医療連携体制を生かして急な往診など、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人がグループホーム近くの友人宅を訪ねたり、地域ボランティア活動への参加、映画鑑賞や外食への誘い等、ホームの中だけではない楽しみを持てる支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望により、主治医を決めている。また、協力医による月2回の往診のほか、看護師による、週3回の見守りなど、利用者が、適切な医療を受けられるように、支援している。	職員は利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握するとともに、利用者や家族等が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。 協力医による月2回の往診や、看護師による週3回の見守りなどで適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、本人体調の変化や、身体の観察を行い、気づいた点などを個別記録に記入し、引継ぎを行い、情報を共有しながら、ケアの実践を行っている。また、それらを看護職員へ相談、情報の共有を行い、必要な看護を行えるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力医による週1回の往診の際に、情報交換や、相談を行い連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>地域の関係者からの意見を聞き、事業所内で、方針を検討し統一したケアが出来るようにしている。重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族等と話し合いを行い、ご希望に添ったケアが出来るように支援している。また、承諾書を作成し押印をいただいている。</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について方針を利用者や家族等、医師と話し合うとともに、家族等から「ターミナルケア承諾書」を得ている。</p> <p>「ターミナルケアの取り組み」を作成し、職員は統一したケアができるよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員は、看護師による研修会を、月に1回受講している。マニュアルを作成し活用している。また、外部研修へも参加し技術の向上に努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て避難訓練を実施している。地域の人々の協力体制については、運営推進会議で検討・実施している。</p>	<p>消防署の協力を得て隣接しているデイサービスと合同で避難訓練を実施している。</p> <p>利用者の避難誘導経路の確認と消火器の使い方の訓練を行っているが、夜間を想定した避難訓練を実施するまでには至っていない。</p> <p>地域との協力体制については、運営推進会議で検討している。</p> <p>災害時に備え食糧や飲料水を備蓄している。</p>	<p>地域住民の協力体制を確立することや、夜間を想定した避難訓練を実施することを期待する。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、介護・支援する中で、人格を尊重した言葉かけを大切にしている。常に利用者様を目上の方として、誇りや、プライバシーを損ねない様に対応している。	職員は居室に入る際に利用者の許可を得るほか、トイレ誘導時には利用者の誇りを損ねないような言葉かけや対応に配慮している。 書類等は事務所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日常生活の状況を把握し、また、本人からの話を十分に傾聴できるように心がけている。そうした中で、ご本人の希望を尊重し自己決定しながら生活できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、利用者一人ひとりが、散歩や縫い物、書道など好きなことをして、過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望をもとに洋服を選んだり、頭髪を希望のようにアレンジしてみたりしている。また、定期的に床屋が来訪し散髪を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者の残存機能を把握し、一緒に食材を切ってもらったり、盛付けや、後片付けを担ってもらっている。献立に、利用者の嗜好を取り入れるとともに、職員は利用者と共に食卓を囲み、支援しながら、食事をしている。	食材は市場から購入しているが、自家菜園で収穫した野菜を加えるなど旬の物を楽しんでいる。 利用者はそれぞれの能力を活かしながら、食事の準備や後片付けを担っている。 職員は利用者と食卓を囲み支援しながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の状況を確認し、本人の好みなどを捉えバランスの良い食事の提供を心がけている。また、食事量・水分量を記録し、必要量が摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者の状況に応じた、口腔ケアを行っている。夕食後以外は、希望者への対応のみとなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の状況を確認し、本人の排泄パターンを把握を行う。それらをもとに、トイレへの声かけなどを実施し自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を記入し、排泄リズムを全職員が把握し、トイレでの排泄残存能力を活かし、排泄の自立に向けた支援を行っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らずに、冷たい牛乳や食物繊維の多い食材を工夫して予防に取り組んでいる。また、運動を実施し、腸の動きを促進するような働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯は、一定の決まりがあるが、そのなかで、本人の希望を聞きながら、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は火曜、金曜日の週2回の13時から16時の間となっている。 利用者の体調に合わせて清拭や肌のケア、足浴の支援をしている。	入浴の曜日を決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう個々に応じた入浴の支援を期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や本人の希望を取り入れ、居室の環境を整えたり、足浴や湯たんぽを利用も行って、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について、資料や看護師からの指導をもとに理解を深め、服薬の支援と症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や掃除など、仕事をお手伝いいただくことで、役割を持って活動していただいたり、散歩や縫い物、草花の手入れ、書道など好きなことをして、過ごせるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩など、一人ひとり希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。普段は行けないような場所へは、家族と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に応じて外気浴を日々行っている。 利用者が近くに住む友人を訪ねたり、家族等や知人の協力を得て映画鑑賞や外食を楽しめるよう支援をしている。 公用車が無いため季節ごとの外出など普段は行けないような場所への外出支援は行われてない。	隣接のデイサービスに送迎バスが2台あるので、話し合い空き時間に利用できるよう配慮することを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物など、ご本人が、自由に使えるように支援している。管理が難しい方に関しては、職員が管理を行いながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂、廊下は広く明るくすると共に、ホールは天窓を設置して、自然の陽光が入るように工夫している。また、和室にはお雛様を飾ったり、梅の花を生けるなど、季節を感じられるよう工夫している。	天窓から自然の陽光が入り明るく、居間と続きにある和室には桃の節句が間近と感じられる吊しびなや梅の盆栽が飾られ、陽春の季節感を採り入れて居心地よく過ごせるよう工夫している。 居間の壁面には利用者が毎月5日の習字の日に季節を表現し制作した作品を掲示している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席を決めて、利用者同士で思い思いにお話したり、趣味を行ったり出来るようにしている。また、皆さんが集まる場所とは違うスペースの提供も行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、居室に家具やテレビ、イス手作りの品、写真などなじみの品物を持ち込み、落ちついてすごせる場所になっている。	利用者は居室に寝具や箆笥、衣服掛け、写真、思い出の品々を持ち込み、馴染みの物品を活かしてその人らしく居心地よく暮らせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の目線に合った印の工夫をして、分かりやすくし、自立した生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ひまわり

作成日 平成22年7月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	利用者の避難誘導経路の確認と、消火訓練をおこなっている。夜間を想定した非難訓練を実施する迄に至っていない。	地域住民の協力体制を確立する事や、夜間を想定した避難訓練を実施する事を期待する	5月26日夜間を想定した避難訓練を実施する。消防署の職員より、通報・消火・非難訓練の指導を受ける。	実施済
2	17	入浴は、火曜・金曜の週2回（13：00～16：00）間となっている。利用者様の体調に合わせ、清拭、足浴等ケアを行っている	入浴の日を決めずに利用者の希望やタイミングに合わせて、個々に応じた入浴の支援を期待する。	利用者の希望を伺い、安全に行えるよう職員体制を配慮し個々に応じた入浴の支援をおこなっている。	実施済
3	18	公用車が無い為に、季節ごとの外出など、普段は行けない様な場所への外出支援は行われていない	隣接するデイサービスに送迎バスが2台あるので話し合い、空き時間を利用出来る様配慮する事を期待する。	年間を通して、大きな行事（花見・紅葉狩り）等は、以前にも数回利用している。今後も、相談しながら継続する。	実施済
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。